

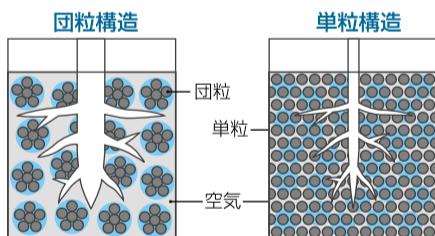
ガーデニング



植物にとってよい土とは

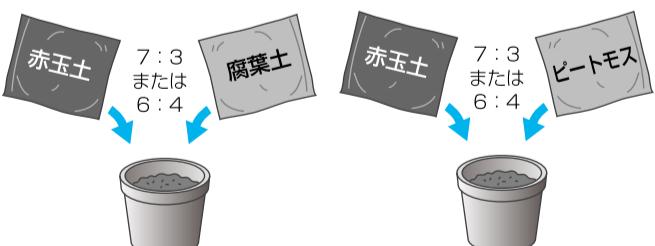
植物は根から肥料、水、空気を吸収します。そのため、土の善し悪しは植物の生育に大きな影響を与えます。植物にとってよい土とは、土が小さな粒状になっていて、粒と粒の間にすき間がある“団粒構造”と呼ばれる状態の土です。団粒構造の土は、すき間を空気がスムーズに流れるので通気性がよく、適度な量の水をため、それ以外の水は排出する保水性と排水性を兼ね備えており、保肥性もあります。

市販用土や、畑や庭の土をベースに、よりよい土を作つてあげましょう。

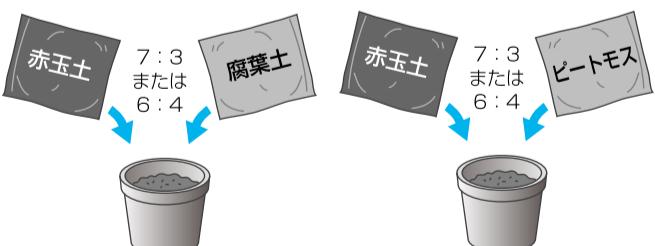


鉢やコンテナで栽培する際のブレンド例

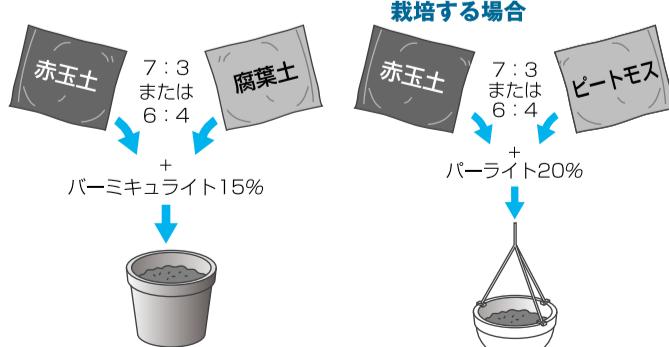
●基本となるブレンド



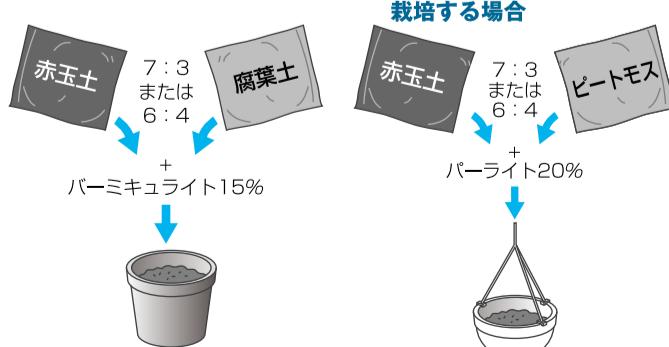
●室内で栽培する場合



●ベランダで栽培する場合



●ハンギングバスケットで栽培する場合



赤玉土の代わりに、黒土、田土、赤土などの用土を用いることもできますが、その際は、通気性、排水性をよくするために、みじんを取り除き腐葉土やピートモスを多めに入れるといいでしょう。

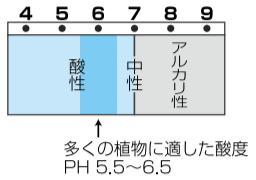
土壤改良

庭や畠の土を掘り返したり、改良用土や肥料などを入れるなどして、植物に適した状態の土にしてやることを土壤改良といいます。土壤改良してから植物を植え付けるまでは、最低1週間は置くことが大切です。

ペーハーの調整

ペーハー(PH)とは土壤酸度のことです。土壤酸度計か専用の試薬と比色表で測ることができます。PH7が中性、それ以上はアルカリ性、それ以下は酸性を示し、一般的な草花、庭木に適した酸度はPH6.5～5.5の弱酸性。日本の土は全国的に酸性が強いので、石灰を土全面に散布して中和させてやることが必要です。

園芸に使用される石灰には、消石



庭や畠の土壤改良

一ごとに土壤改良するのが基本。時期は特に問いませんが、冬に行うと寒さにさらすことで土の塊が風化され、土中で越冬している害虫類の卵やサナギが表面に出て寒さで死ぬので効果的です。

①苦土石灰を表面がうっすら白くなる程度まいたあと、30cmほど掘り起こして、草や石などを取り除いて最低1週間～1ヶ月、できれば2～3ヶ月放置して寒気にさらす。

②土が風化し、塊がくずれた状態になったら、土の量に対し20～30%の割合の土壤改良材（堆肥、腐葉土、ピートモスなど）を土と混ぜ合わせる。このとき、元肥として油粕や骨粉なども少量混ぜてやるといい。

灰と苦土石灰があります。消石灰は効き目が強いのですが、中和する際に発熱するので最低1週間は植え付けができません。苦土石灰は、石灰にナトリウムなどを加えたもので、消石灰よりやや高価ですが、使いやすさの点でおすすめです。ただ、苦土石灰を使った場合もできるだけ2～3日は間をおいてから植え付けるほうが安心です。量は、表面がうっすら白くなるくらいが適量。畠や庭なら1m²（深さ10～15cm）当たり200g（湯飲み茶碗1杯）、鉢の場合は15cm鉢で茶さじ1杯を目安にしてください。アルカリ度が高い場合は、PH未調整のピートモスを加えるとよいでしょう。

培養土は、ものによってその品質が異なります。初めて使うときは、以下の2点だけでもチェックしてから使用すると安心です。

用土の基礎知識

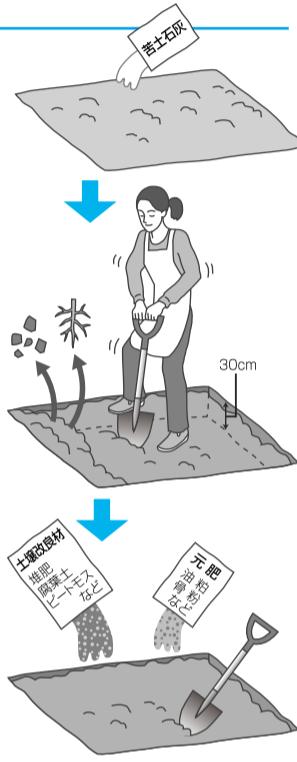
One Point Advice

培養土の品質チェック法

培養土は、ものによってその品質が異なります。初めて使うときは、以下の2点だけでもチェックしてから使用すると安心です。

●保水性、排水性

容器に入れた土にその半量の水を加えてかき回し、30分後にその土を軽く握ってみると排水性がよく、固まなければ保水性が悪いということ。また、固まつた土を指で軽く押してみてすぐくずれたら排水性がよく、くずれなければ排水性が不良と考えることができます。それぞれ、適した改良材を加えて改善してください。



園芸用土の種類

■主な用土の種類

基 本 の 用 土	通気性	保水性	保肥性	特 徴	改 良 用 土	通気性	保水性	保肥性	特 徴
基 本 の 用 土	△	○	○	有機質を多く含んでいる天然土で、種まきや育苗、小鉢の用土としてなど用途が広い。通気性、排水性はあまりよくないので、腐葉土などを混ぜて使うといい。また肥料としてリン酸を多く施してやる必要がある。	腐葉土	○	○	○	広葉樹の落ち葉を腐熟させたもので、通気性、保水性、保肥性が高いうえ、微量元素を含んでおり、微生物を活性化して土質をよくする効果がある。品質にバラつきがあるが、葉が黒く変色し、形が崩れかけている程度に腐熟が進んでいるものが良質。
赤玉土	○	○	○	有機質を含まない粘質の弱酸性の赤土を乾燥させてから、大・中・小の粒にふるい分けたもの。排水性もよく、ほぼ無菌なので、鉢ものの栽培や挿し木用土などにも最適。5号鉢以下なら小粒か中粒、6号鉢以上なら大粒を使用する。	堆 肥	○	○	○	牛糞を発酵させた牛糞堆肥やバークチップを発酵させたバーク堆肥などがある。花壇や畠の土壤改良に適しております。腐葉土と混せて使うとさらに効果的。完熟したものならコンテナで使うことも可能。
鹿沼土	○	○	○	栃木県鹿沼地方だけに産出される火山灰土の一種で、有機物をほとんど含まない酸性土。みじん（土が砕けて細かくなつたもの）を取り除いたものは、通気性が高く、保水性もよいのが特徴。挿し木用土のほか、ツツジ、サツキ類など通気性のよい土を好む植物に向いているが、酸性を嫌うものには不向き。	ピートモス	○	○	○	水ゴケが堆積して泥炭状になったもの。腐葉土と同じように使えるが、微量元素はほとんど含まず、微生物を活性化する力は弱い。しかし、いつでも均質でほぼ無菌なので、室内栽培には腐葉土よりもおすすめ。ほとんどのものはPH調整してあるが、未調整のものは酸度が強いので苦土石灰を加えて使用を。
桐生砂	○	○	○	鉄分が多い黄褐色のやわらかい山砂で、水はけ、水持ちはよく、山野草の植え込みやラン、サボテン、盆栽などの用土に適している。	バーミキュライト	○	○	○	ヒル石を高温で処理したもので、保水性と保肥性に富み通気性もあるうえ、無菌に近く衛生的なので、単用で種まきや挿し木、苗の移植床などに使用することもできる。また、軽いのでハンギングバスケットの用土に加えると効果的。赤玉土など粒状の用土に配合して使うと優れた効果を発揮するが、庭土、黒土、田土には不向き。
日向砂	○	○	△	宮城県で産出される黄褐色の軽石。通気性に富み、保水性もあるので、ラン類や山野草、盆栽などの用土に向いている。ほかの土に混ぜると通気性を高める効果がある。	パーライト	○	△	△	細かく碎いた真珠岩を高温処理したもので、通気性、排水性に富んでおり、通気性の悪い土の物理的改善に効果的。ただし、保水性、保肥性はあまりよくないので注意。バーミキュライトやピートモスと混ぜて鉢植えやハンギングバスケットに使用するとよい。また、挿し木床や育苗にも使用可能。
荒木田土	△	○	○	重い粘質土で、害虫の心配はほとんどない。保水、保肥力が強いので、植物がしきり育つ。キクなどの鉢植えや花壇用土として使われるが、通気性が悪く、連用すると固まりがちなので注意。	クレイボール	○	○	△	粘土の小粒を焼いたもので多孔質で水分をよく含む。微粒のものは、挿し木、まき床、鉢植えに、大きな粒は鉢底に敷いたり、水耕栽培に使用できる。煮沸、水洗いしても崩れないので、何回も使うことができる。
水ゴケ	○	○	○	湿原の水ゴケを乾燥させたもので、自分の重さの10倍以上の水を含むことができる保水性の高さが特徴。黒や茶色のものより、薄緑色、薄黄色のほうが品質が上で見栄えもよい。十分に水に浸してから水を絞って使用する。ハンギングバスケットのほか、とり木、挿し木、つぎ木の乾燥防止や観葉植物や洋ランの植え込み材料などに用いる。					

